

市町村発・元気なあおもりづくり支援事業成果表（平成19年度）

市町村名	新郷村	担当課担当グループ	産業建設課産業G
事業名	畜産経営安定支援事業		
事業の目的、概要及び具体的な成果	（目的、事業概要） 新郷村は、就業者数の4割強が農業に従事し、村の総生産の2割が農業によるものであり、新鮮な野菜や乳製品が特産品となっているなど農業が基幹産業となっている。人口減少や少子高齢化が進展し、地域活力の衰退が危惧されるなか、機関産業である農業を中心として村の産業の活性化をいかに図っていくかが、喫緊かつ重要な課題となっている。 このため、新鮮な野菜や乳製品、自然豊かな牧場やキャンプ場など村固有の資源を活用した総合的な地域活性化策として、日本一の健康な土づくりを目指し、「有機資源センター新郷」を核として、畜産農家と耕種農家との連携を強化し、健全な土づくりによる安全安心な農産物の生産供給体制を確立するものであります。 また、本村の基幹産業である畜産の現状は、肉牛の子牛価格では、県基幹種有牛の「第一花国」の評価の高まりとともに好調に維持しているところです。 しかし、世界的なバイオ燃料の開発・活用が進む中で、輸入に頼るわが国の家畜飼料用穀物の情勢は非常に厳しく相場の高騰により、濃厚飼料を必要とするため畜産経営に大きく影響を及ぼしている。ちなみに過去1年間の中で、飼料代は1tあたり1万円の値上がりを示している状況となっている。また、酪農部門では牛乳の消費が低迷する中で、生産調整が予想されるとともに生乳出荷においては細菌数の基準強化、乳質による単価の設定等一段と厳しさを増している。 このため「畜産の村」として、その経営の安定と家畜排せつ物の適正処理及び耕畜連携による資源循環型の「有機の里づくり」の推進のため、畜産経営安定支援補助金制度を創設し実施するものである。 現在、堆肥原料を有機資源センターに搬入する畜産農家の負担は1tあたり500円となっており、今後の経営安定支援事業補助は搬入量に応じ、1tあたり400円の助成をするものである。		
	（具体的な成果） 家畜排せつ物の適正処理及び耕畜連携による資源循環型の「有機の里づくり」の推進のため、畜産経営安定支援補助金制度を創設し、畜産農家の堆肥原料（家畜排せつ物）の搬入により適正に処理がなされた。		
事業期間	平成19年度		
住民への公表の方法	村ホームページに掲載し公表		
事業を構成する具体的内容			
名称及び事業費	事業概要		
畜産経営安定支援 総事業費 2,025千円 （うち県補助金） 1,012千円	当村における家畜排せつ物の処理状況は、畜産農家の自家処理、稲わら交換による耕種農家への提供による処理であり、当有機資源センターの搬入は家畜排せつ物の約30%が堆肥原料としてセンターに供給されている現状であった。しかしながらすべてが適正処理されている訳ではなく、畜産農家、耕種農家の野積み状況が見受けられていたことから、今回の経営安定支援補助により、堆肥の適正処理と、土づくりの両面の推進が図られた。		